

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	桂川・支川対策特別委員会	会議場所	全員協議会室
		担当職員	佐藤
日 時	令和3年6月29日(火曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 05 分
出席委員	◎西口純生、○木村勲、大塚建彦、並河愛子、藤本弘、竹田幸生、菱田光紀		
出席理事者	【まちづくり推進部】関部長、伊豆田事業担当部長 [桂川・道路交通課]信部課長、鹿島副課長		
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議（西口委員長あいさつ）

（事務局日程説明）

[まちづくり推進部入室]

2 案件

- ・河川改修の状況と今年度の計画について

[まちづくり推進部長あいさつ]

[桂川・道路交通課長より資料に基づき説明]

10:30

[質疑]

<大塚委員>

資料の6ページ、「JR～極楽橋」のJRとはどの辺りのことか。

<桂川・道路交通課長>

下流区間のJR嵯峨野山陰線から極楽橋までの全ての区間を表している。7ページの地図の右上、JR雑水川橋梁から上流の極楽橋までである。

<大塚委員>

春日橋について、ローソン跡地の所有者と話がつけば、迂回路を作り浚渫できるとのことだが、詳細な説明をお願いします。

<桂川・道路交通課長>

ローソン跡地から南側に住家があり、その一部を充てなければ、迂回路が設置できない状況である。雑水川の右岸の地権者の方にも、京都府と亀岡市で、迂回路の設置についての協力依頼をしているところである。

<並河委員>

宇津根橋から保津川遊船企業組合まで、土砂堆積がものすごいが、撤去の計画はな

いのか。

<桂川・道路交通課長>

10 ページに、今年度の浚渫箇所を記載しているが、赤で丸をしている箇所がそうである。宇津根橋から月読橋までの広範囲を撤去していく計画である。今年度の出水期後に河川の状況を調査して、優先順位をつけて浚渫を行っていくと京都府から聞いている。

昨年度の実施箇所は黄色の部分で、花火の打ち上げ場所付近と河原林町と千代川町のほ場整備の横と月読橋周辺である。

<藤本委員>

12 ページ、雑水川河川改修について、北町橋から極楽橋までの完成はいつ頃になるのか。

<桂川・道路交通課長>

まずは、ネックとなっている北町橋の改修を進めていただいているところである。また、下流の春日橋も進めていただいている。上流の極楽橋までの完成時期は明確に示されていない状況である。

<まちづくり推進部長>

整備計画が示されている中では、30 年間という方向性を示されている。春日橋、春日小橋が最重要課題であり、それができれば、上流まで行き、治水安全度も高まるので、まずは、春日橋関係の改修を進めていただくことになる。並行して、上流も進めていくことになる。地元自治会からも南丹土木事務所に要望していただいております、京都府でも、検討していくということで予算化もされている。1 日でも早く完成していただけるように、今後も要望していく。

<西口委員長>

いつも、京都府が、河川整備の基本的な考えは、「下流から」であり、バランスある整備促進が必要であると言っている。下流の流下能力を高めなければ、上流の整備ができないということもご理解いただきたい。とは言え、並行してできることはどんどんやっていただきたい。

<竹田委員>

11 ページ、若宮橋は令和4 年度に供用開始するが、千々川橋はその若宮橋に引き続いて整備しなければならないと考える。80 メートルの整備の見通しはどうか。

<桂川・道路交通課長>

今年度は、両側90 メートルを整備していただいているので、滞りなく引き続いて整備していただけるように要望していく。

<竹田委員>

支川も大事であるのでよろしく願います。

<木村副委員長>

17 ページ、若宮橋が令和4 年度に供用開始するが、具体的に何月か分かっているのか。

<桂川・道路交通課長>

まだ具体的に何月かは聞いていない。

<木村副委員長>

若宮橋にアユモドキが発見されたということだが、今後、犬飼川の浚渫にどのような影響があるのか。

<桂川・道路交通課長>

若宮橋の架け替えは支障なく進められる予定である。ほかの浚渫区間についても、

支障になるとは聞いていない。

<まちづくり推進部長>

浚渫の関係であるが、犬飼川については昨年下流の浚渫工事を行っていただいているので、一定対策を講じながら実施されている。アユモドキに配慮しながら進めていただいているし、今後も要望していく。

<菱田委員>

支川について、どこというのではないが、市街地に入るまでの区間で、一昨年に堰堤の浚渫をしていただいたが、今後の計画はあるのか。

<桂川・道路交通課長>

現地の堆積状況を京都府に確認していただいて、必要な箇所は速やかに対応いただけるように要望していきたいと考える。具体的な場所を教えていただければ確認する。

<菱田委員>

今のところ具体的にはないが、今後、集中豪雨になると一気に土砂がたまってしまふ。掘削して、たまっている土砂を取ってもらうことで、本川の桂川への堆積が防げるので、場所を見つけたら報告するが、そのような観点で市のほうも見ていただきたい。

<藤本委員>

宇津根橋の完成時期は。

<桂川・道路交通課長>

来年の春である。

<西口委員長>

大型配水ポンプ車の配備について、現在京都府下に4台配備されているが、南丹地域にはなぜないのか。常に京都府に要望していただかないと、線状降水帯など異常気象で、亀岡市でも今までにないような豪雨の可能性があり、内水による浸水被害が確実に出てくるおそれがある。配備についての要望を強めていただきたいのと、訓練を実施いただきたいがどうか。

<まちづくり推進部長>

委員長のご指摘のとおり、南丹地域には、ポンプ車が配備されていない。京都府には、有事の際に速やかに出動願える体制をつくることと、ポンプ車を配備していただけるように要望していきたいと考えている。また、国においてもTEC-FORCE（テックホース）という組織があり、配水ポンプ車を配備されており、防災関係で協定を結んでいるので、出動要請は可能である。

手順やフロー関係についても速やかに対応できるように、配備位置などについては、過去の経験を踏まえてシミュレーションしている。そのように常に強く要望していきたいと考える。

総合防災訓練でも、実際に配水ポンプ車を持って来てもらえないか、できなければ、訓練の映像を流していただけないか、自治防災課とも協議・調整しているところである。

<西口委員長>

霞堤が上がるということは、内水が止められることになるので、十分に配慮をお願いする。

[まちづくり推進部退室]

3 その他

<西口委員長>

今後の取組について、今はコロナで大変な状況であるが、今年度このようなことをしてはどうかなど意見はあるか。

<竹田委員>

霞堤が1メートル嵩上げされるので、現場を見に行きたいと考える。また、内水面が上がってくるので、支川の研究もしていきたいと思う。国や府に強く要望していくことも大事であると考えている。

<西口委員長>

配水ポンプ車の現物を見に行ったり、能力を研究する機会が持てればと思う。市民に安全度を確認してもらうことも大事だと思う。また正副委員長と事務局と相談しながら、何ができるかを考えていきたいと思うし、コロナが収束すれば、視察にも行ければと考える。

<木村副委員長>

今年の防災訓練では、ぜひ配水ポンプ車を持って来てほしいと考える。総務文教常任委員会からも自治防災課へ強く要望したいと思う。

<西口委員長>

京都府から聞いていると、能力的には、家庭の浴槽200リットルで、1分間に150杯分の配水ができるとのことである。配水ポンプ車の配備を桂川・支川対策特別委員会からも要望していければと考える。霞堤が上がってきた現実の中で、内水処理についても考えているという姿勢を、市民に積極的に示していく必要があると思う。

<藤本委員>

北町橋や宇津根橋、若宮橋、春日橋について、現場確認を行いたい。

<西口委員長>

何ができるかを検討して、また日程調整させていただく。

～11 : 05